



名前

1

次の文章を読んで、あとの問一〜問十三に答えなさい。(抜き出し、および説明などの問題で字数制限があるものについては、「」「」やカギカッコなどの記号も一字として数えます。)

ゆうべから涼<sup>りやう</sup>万<sup>まん</sup>の心は、明日の朝は合唱コンの練習に行く<sup>い</sup>と決めていた。だから、岳<sup>が</sup>の執<sup>しやく</sup>拗<sup>ご</sup>なメッセージも、既<sup>き</sup>読<sup>てき</sup>をつけると面<sup>めん</sup>倒<sup>たう</sup>だから、未<sup>み</sup>読<sup>てき</sup>状態のままスルーした。

スマホのロック画面には、何度も岳からの通知が流れた。

——明日の朝練、部活行くつしよ

——おい

——帰り、晴<sup>は</sup>美<sup>み</sup>に会<sup>あ</sup>えた？

——おい

——もう寝<sup>ね</sup>た？

① 涼方<sup>りやう</sup>はため息をついて、スマホを裏返した。

そっか、疲<sup>つか</sup>れて寝<sup>ね</sup>たことにすればいいんだ。だから気づかなかったってこと。

心の中で岳への言い訳<sup>わけ</sup>を考えながら、「明日は合唱コンの練習に行く」<sup>②</sup>ではつきり断れずにいる自分にイラついた。

言い訳考えてホツとしている自分、ちっちゃー。

くそつ。

そのとき何の脈絡<sup>まくな</sup>もなく、音心<sup>おんしん</sup>のセリフが急に脳内<sup>のうない</sup>でリフレインした。

——あいつら、どうせ音楽なんて分かってないっしょ。

さつきとは別の種類のイライラが、また発生した。

そんなことを繰り返していたから、なかなか寝付けなくなったのだ。学校に着くと、昇降口<sup>しょうかうぐち</sup>に向かう途中の体育館から、単独でバスケットボールをドリブルする音が聞こえてきた。ドリブルしているのは岳に違<sup>ちが</sup>

いない。涼方は足を止めた。

岳は朝練の集合時間よりも早く来て、よく先にひとりで練習している。一年生は朝練といっても、ボール拾いや声出しが中心で、なかなかメイ<sup>メイ</sup>ンの練習には加われない。

小学生のときからミニバスケットボールのクラブに入っていた岳はそれが不満らしく、もつとうまくなつて一年でもまともな練習に加わられるように、早くレギュラーの座を奪<sup>うば</sup>いたい、と涼方に豪語<sup>ごうご</sup>していた。

ダン、ダン、ダン、ダン……。

床を打つドリブルの音は背骨<sup>せきほね</sup>にずんと響<sup>ひび</sup>く。ドリブルの音が離<sup>はな</sup>れていつて最後に消えると、シューズというボールが網<sup>あみ</sup>をすり抜<sup>ぬ</sup>ける音がした。胸のすく音だ。

ナイッシュュー。

涼方は心の中でつぶやいた。

最初はデッカいことを言うやつだと思ったけど、<sup>②</sup>岳のバスケットに対する熱は半端ない。

岳だったら、本当に一年生のあいだに、レギュラー取れるかも知れないな。

ん？ ……俺<sup>おれ</sup>は、どうなんだ？ 自分も同じバスケット部員なのに、ひとことみたいに岳に感心<sup>かんしん</sup>している俺<sup>おれ</sup>ってどうなんだ？

バスケットは好きだ。でも岳ほどではない。これは確かだ。ただでさえ朝早く起きるのが苦手なのに、集合前に練習しようなんて発想は、さらさらない。

スポーツが得意だから、中学に入ったら運動系の部活に入ろうと決めていた。バスケット部に入ったのは、サッカーや野球は小学生からやってきたやつにかなわないと思ったし、陸上はただ走っているだけで地味だし、



名前

くらしいの感じだった。

バスケットは初心者が多い。なんでも器用にこなす涼方は、最初から経験者と間違われるほど、それなりにうまかった。

でも、岳みたいに熱くなれない。

ドリブルの音が、気づけば耳から遠のいていた。涼方は軽く頭を振ると、A 後ろ髪を引かれる思いを振り切って、昇降口に向かって一歩を踏み出した。

学校に着くまでは、体育館に顔を出して、岳に部活の朝練を休むって伝えるつもりだった。このままじゃ無断欠席になるし、岳からのメッセージもスルーしたままで、さすがに申し訳が立たない。

でも今は、③ 良心の痛みよりもおっくうな気持ちの方が勝ってしまっただ。昇降口に入り、下駄箱で上履きをつかむと、後ろからバンツと背中をはたかれた。衝撃でおでこを下駄箱にぶつけそうになる。

眉間にしわを寄せて後ろを振り返ると、

「おっはよー。涼方、やっぱり来てくれたんだ」

満面の笑みの晴美がいた。目を a させている。

「岳は？」

涼方は無言で体育館の方向にあごを向けた。

「そっか、あいつは部活の朝練ね。ま、涼方が来てくれただけで、うれしーな。昨日涼方のこと待ち伏せしたかいがあったよ」

【X】が点になった。

別に晴美に言われたから来た、ってわけじゃないんだけど……。

晴美が勝手に解釈して嬉しそうにしていることに、決まり悪さを感じながら、涼方も晴美のあとを追いかけた。

晴美とほぼ同時に教室に滑り込むと、結構な人数のクラスメイトたち

が集まっているようで、教室の中は b 賑わっていた。

「みんな、今日は合唱コンの朝練に来てくれてありがとー。あと二週間しかないけど、頑張って優勝しよー」

と右こぶしを掲げた。

④ ああいうことが自然に出来る晴美は、ある意味すごいな。俺には出来るそうもない。

感心しながらぼんやり見ていると、晴美は涼方の目線をキャッチして、明らかに涼方だけに向けてにっこり笑った。⑤ 涼方はどうリアクションしてよいか分からず、瞬きを繰り返した。

だから、俺は晴美のために来たわけじゃ……。心の中で抵抗する。

じゃあ、なんで？ なんで俺は、岳をシカトしてまで合唱コンの朝練に来たんだ？

他のことは結構いい加減だけど、バスケットへの執着については人を寄せ付けないほどの岳。

ピアノの即興を、さらりと弾いてしまっ音心。

負けたくないと思ったら、クラスをぐいぐいと仕切ってしまう晴美。そして、放課後ひとりで歌いながら、指揮の練習をしていた……早紀。

なんかみんな、熱いな。

俺がもっている熱の温度と、違うんだ。

行事なんかで一生懸命真面目にやるって、なんか格好良くない気がする。なんかダサイような、なんかこっぴどかしいような、実際めんどくさかったりもして。

考えごとをしていたら、となりの男子がサツと足を開いた。顔を上げると、早紀が指揮棒を頭上に掲げている。涼方は少し遅れて、足を肩幅



名前



に開いた。

合唱が始まる。背筋がびりつと伸びた。

早紀が正面に向き直って、前奏のあいだ抑え気味に指揮をする。そして歌い出しの合図で、指揮棒を大きく右に振り出した。

——はじめはひとり孤独だった

ふとした出会いに希望が生まれ

……

早紀の上半体はなめらかに優雅に揺れる。④ 指揮棒は弧を描くように宙を舞う。

涼方は歌うのも忘れて、その姿に一瞬で吸い込まれた。不思議なことに、涼方の頭の中では、みんなの歌声の代わりに、昨日こっそり聴いた早紀の歌声が流れていた。

やがて、⑦ 早紀の指揮棒からなめらかさが消えた。男声パートが始まったのだ。

——迷いながら躡きながら

歩いてきた

岳やあと何人かは合唱の練習に来ていなかったが、ここにいる十数人の声とは思えぬ、c した辛気くさい歌声が、床に這うように広がった。何とか歌ってもらおうと、早紀は必死に指揮棒を振った。でも必死になればなるほど、今までとはうってかわってぎこちない姿になった。涼方は我に返った。

歌わなкゃ。

早紀のために、歌わなкゃ。

そのために、俺、来たんだ。

——どうしようもない

歌うぞ。さ、早く！

ずっと息を吸い込んだ。吐く息とともに、⑧ これ以上は出せないというくらい大きな声を出した。肺の息をすっからかんに出して、全てを歌声に注ぐ。

「苛立ちをー」

自分でもびっくりするぐらいの大音量だった。涼方以外の男子生徒十数人を合わせた歌声よりも、涼方ひとりの声の方が圧倒的に大きかった。周りの男子があれっというふうに反応した。涼方は構わず続けた。

「感じまー……がら」

涼方の額から d 火が出た。高音の「な」の音が完全にひっくり返り、B 素っ頓狂な声が飛び出したのだ。メロディーラインを逸脱した「な」は、派手にイレギュラーしてあさつての方向にバウンドし、続く「がら」を蹴飛ばしていった。

となりの男子がついに吹き出した。もう混声のフレーズにメロディーはうつつているのに、それが伝染したみたいに、前の男子も涼方を振り



名前

返って笑った。女子は笑いをこらえながら歌っている。

昨日の咳に続き、またやらかしてしまった……。

うなだれかけたときだった。突然、大音量の伴奏で窓ガラスがびりつと震えた。みんな同時に肩を縮めて、号令がかかったみたいだに音心の方を見た。

音心は何くわぬ顔をして、いったん最大にひねったポリウレームのつまみを、調整してもとに戻した。

音心のおかげで、涼万のひっくり返った声で乱れた空気が、リセットされた。指揮者の早紀は、何があっても止めることなく、懸命に指揮棒をふり続けている。

晴美がまた歌い出すと、女子も引つ張られるように歌い出す。涼万も恥ずかしさをこらえて歌に加わる。すると他の男子もつられて、真面目に声を出し始めた。

早紀の目が輝きだした。初めて合唱らしい合唱になってきた。ひとつひとつの声が重なって、一本の帯のような流れになる。ソプラノ、アルト、男声のそれぞれが、自分のメロディーに忠実に、でも別のパートを感じながら歌っていた。それがうまく調和し、互いに互いの良さを引き出した。早紀の指揮棒はティンカーベルの魔法の杖みみたいだ。そこから放たれる不思議な力で、三十数人のハーモニーを誘導する。

音楽を聴くのは楽しいが、自分たちがつくる音楽、みんなで合わせて歌う音楽も楽しいことを発見した。とても新鮮な感覚だった。

——新しい本当のわたし

未来へと歌は響きわたる

曲の始めに出てきた時と同じフレーズとは思えないくらい、音量も伸びもある。早紀が曲を締めるために両腕を掲げて「e」止めた。

曲が終わった途端、《Y》のため息のような声ももれた。

「今のすっごく良かったよね。いいじゃん、うちのクラス」

頬を紅潮させた晴美が興奮してまくしたてている。クラス中が弾んだ空気に包まれた。涼万は両手を組んで伸びをしたが、まだやっぱり早紀と目が合っているような錯覚が続いていた。

んなわけないし。

目をそらそうとした瞬間、早紀の口もとが動いた。

(あ・り・が・と)

胸がトンと飛び跳ねた。

えっ、俺に言ってる!?

人差し指を自分の鼻先に向けたと同時に、急にむせた。むせた咳は咳を呼んで、また咳が止まらなくなった。

そのとき、がらりと前の扉が開いた。

「あっちー」

手をうちわにして、岳が教室に入ってきた。岳は涼万をちらりと一瞥すると、

「だっせ」

と吐き捨てた。涼万は咳が落ち着くと、ゆっくりと岳に近寄った。

「岳、俺合唱コンまでは、こっちの朝練に出るわ」

ムツとした顔で、岳が何か言い返そうとするのを、

「あ、今朝は連絡しなくてすまん」



名前

/

と、かぶせた。

⑨ 喉はひきつれているのに、言いたい言葉はすると出た。涼方はちよつぱり出た喉もとの出っ張りを、人差し指で軽くさすった。

(佐藤いつ子「ソノリテイ はじまりのうた」より。設問の都合により本文を改めたところがある)

※1 執拗：しつこい様子。

※2 脈絡：ものごとのつながり、筋道。

※3 リフレイン：何度もくり返すこと。

※4 即興：その場で思いのままにつくりだすこと。

※5 逸脱：決められた枠から大きくはみ出すこと。

※6 ソプラノ・アルト：ソプラノは、女声の高い音域のパート。アルト

は、女声の低い音域のパート。

※7 一瞥する：ちよつとだけ見ること。

問一 —— 部①「涼方のため息をついて、スマホを裏返した」とありま

すが、このときの「涼方」の気持ちとして適当なものを、次のア

エの中から一つ選び記号で答えなさい。( )

ア 部活の朝練がいやなわけではないが、岳の熱心さについてい

けないということをどう伝えようかと考えている。

イ 明日の部活の朝練には行かないとはつきり断つたのに、何度も

メッセージを送ってくる岳にいら立っている。

ウ 合唱コンの朝練に行くか部活の朝練に行くか、まだ決断できな

いでいる自分の優柔不断さに嫌気がさしている。

エ 岳に文句を言われるだろうと思うと面倒で、岳に合唱コンの朝

練に行くと言えない自分を情けなく感じている。

問二 —— 部②「岳のバスケに対する熱は半端ない」とありますが、涼方

は具体的に「岳」のどのような行動から、そう感じているのですか。六十文字以内で答えなさい。

-----

問三 —— 部A「後ろ髪を引かれる」、B「素っ頓狂な」の本文中での意

味を、次のア～エの中から一つ選びそれぞれ記号で答えなさい。

A 「後ろ髪を引かれる」( )

ア 心残りである      イ 遠慮がある

ウ 興味がある      エ 義務がある

B 「素っ頓狂な」( )

ア 個性的な様子      イ 注目される様子

ウ 調子はずれな様子      エ 自然のままの様子

問四 —— 部③「良心の痛みよりもおつくうな気持ちの方が勝ってしまった」とありますが、これはどういうことですか。適当なものを次の

ア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。( )

ア 岳に返事をしなかったのは申し訳なく感じているが、明日は合

唱コンの朝練に行くこと晴美と交わした約束をなんとしても守りた

いと思つたということ。

イ 岳に返事をしなかったのは申し訳なく感じているが、何度もメッ

セージを送ってくる岳にうんざりしたので、部活の朝練には行か

ないと決めたということ。

ウ 岳に返事をしなかったのは申し訳なく感じているが、自分は岳

のようにバスケットボールに熱くはなれないし、上手になれない

ことに気付いたということ。

エ 岳に返事をしなかったのは申し訳なく感じているが、部活を熱